

ウェディングドレスのデザインに関する研究 (2) —2019年と2020年のトレンドデザイン分析を中心に—

Study on the design of wedding dresses (2nd report)
—Focusing on trend design analysis for 2019 and 2020—

トレンド、デザイン、ニューヨークブライダルファッションウィーク、ヴォーグ、
インターネット情報
Trend, Design, New York Bridal Fashion Week, VOGUE, Internet information

宮武 恵子、加藤 裕子
Keiko MIYATAKE, Yuko KATO

1. はじめに

ウェディングドレスのデザインの研究に2019年より取り組んでいる¹⁾。ブライダル業界におけるビジネス変遷やマーケティングなどの社会科学、被服学教育や作品制作を題材としている被服造形分野の論文は見られるが、ウェディングドレスに関するデザインの視点で論じているものは少ないことが理由である。また、2019年に実施したブライダル企業のヒヤリング調査および文献調査から、業界独特の概念がある一方、ファッション業界と類似している点が複数見られたことも動機となった。類似している点は、消費者の意識の実態や製品設計のプロセス、さらにドレスのトレンドが生まれる基点やドレストレンドを紹介する提示方法などである。これまで第1著者は、アパレルメーカー、OEM・ODM¹⁾におけるデザイナーとして、また企画提案を行ってきた業務経験から得た知見を活かしてファッション・デザイン及び企画、ファッション感性などの研究を行ってきた。ここでやってきたファッションに関する研究と同様の視点で分析を行うことで、ウェディングドレスのデザインについての研究は独自性とともに意義があると考えられる。

2019年の第一報（以下：前稿）は、大きくはないが緩やかな変化があると仮説を立てたウェディングドレスのトレンドとデザイン（形・色・素材など）について、明らかにすることを目的とした。トレンドのデザイン表現を明らかにするためには、一過性ではなく時系列推移に伴う変化を精査しなければならない。そのため、継続的なデータの分析が必要である。その資料として、基となるウェディングドレスにおけるデザインの基礎的な概念を整理してまとめた。形（シルエット・ディテール）・色・素材について、先行研究などを整理して基礎となる資料を提示した。そして、ウェディングドレスのトレンドについては、『VOGUE JAPAN』の公式サイトⁱⁱ⁾のコンテンツWedding²⁾で発信されているニューヨークブライダルファッションウィークのブライダルトレンドレポートを分析資料とした。分析資料とした理由は、ファッション業界において信頼性のある『VOGUE』が発信するトレンド情報であること、近年の傾向としてニューヨークブライダルファッションウィークの情報をもとに自身が着用するドレスを探す消費者が増えていることなどを前稿で述べている。2019年に行ったトレンド情報を分析した結果から、オフショルダーやパワーショルダーは

プレタポルテの影響を受けているなどのリアルクローズのトレンドの提案と類似性を確認できた。さらに、項目別の分析結果から、形を示唆する用語が多く、シルエットよりディテールが多いなどもリアルクローズのファッショントレンドの提案と類似している。リアルクローズのトレンドにおいても、シルエットよりディテールのトレンド変化は著しいため、毎シーズン多くの提案がある。一方、ロイヤルウェディングの影響を受けたロング・スリーブがトレンドとなっていた。先行文献からも検証できているロイヤルウェディングが発端になるトレンドは、ウェディングドレスのデザインの流行に大きな影響があると確認できた。デザインを表現する視点で項目別分析結果を検証すると、イメージを示す用語は、特にディテールと関連していることが分かった。これらの結果から、分析方法の妥当性を示した。

2. 研究目的

本研究は、「デザインの基礎資料の整理」と「2020年のトレンドデザイン」の2つの主題をもってすすめる。

まず、「デザインの基礎資料の整理」は、前稿では、ウェディングドレスのデザインの基礎となる形（シルエット・ディテール）・色・素材の資料を提示した。しかし、ウェディングドレスのシルエットを保持するために必要なパニエについては、触れていない。パニエが作り出すスカートのシルエットがドレス全体のイメージを大きく左右するため重要な役割を果たすとされている³⁾。さらに主役の花嫁は、後ろ姿も注目されるため、バックスタイルに華やかさを演出するトレーンの長さやボリュームなどは重要である。ゼクシィ結婚トレンド調査 2019 (以下：ゼクシィ結婚トレンド調査)^{iii) 4)}によると、挙式スタイルの一番の人気は、キリスト教式(教会式)で、2013年からの結果を参照しても、55.0%以上がキリスト教式を選んでいる。キリスト教の教えに沿って厳かに行われる挙式で

は、ゲストは花嫁の正面、側面また後ろ姿に注目している。360度どこからでも、ゲストを魅了できるようなドレスを創造しなければならない。中でも、多くのゲストに見守られながらドレス姿でバージンロード(教会の入口から祭壇に向かう中央の通路)を歩くシーンをイメージして憧れる花嫁が多いとされている。ゲストは、バージンロードを歩く花嫁の後ろ姿に注目するため、華やかに演出するトレーンのデザインは重要である。本研究では、前稿の資料にパニエとトレーンの基礎概念を加えて、継続的に進める研究の基礎的な資料を整える。

そして「2020年のトレンドデザイン」は、インターネット情報とニューヨークブライダルファッションウィークの資料を用いて、2019年と2020年のトレンドデザインの傾向を導き出す。ゼクシィ結婚トレンド調査によると、ウェディングドレスを検討する際に利用した情報源は、結婚式場の紹介(提携)が35.9%と多く、時系列で参照しても継続して支持されている。インターネットにおける情報を合計すると60.2%で、特に首都圏は年々上昇している。インターネット情報の内訳は、SNSが34.5%、結婚情報誌サイトが27.9%、結婚情報サイトが27.1%である。現在は、多くのWebサイト(以下：サイト)が展開されている。式場、ドレス、結婚式のアイデア、二次会会場などの情報を探す際に目的に応じて検索するため、各サイトが得意分野を充実して他のサイトと差別化を意識して発信している。さらにインスタグラムも含めて、最新のドレスのトレンドなども示している。これらのインターネット情報を用いて傾向を分析することにより、リアルに消費者に支持されているデザインについて明らかにできると仮説を立てた。

そして、ブライダル業界が企画発想するための主な情報源であるとしているニューヨークブライダルファッションウィークは、前稿と同じく『VOGUE JAPAN』のウェディング情報に特化した『VOGUE wedding』のブライダルト

レンドレポートを資料とする。なお、ブライダルトレンドレポートを選定する理由は、前稿を参照されたい。前稿と同じ項目別にデータ化して、2020年のトレンドデザインを導き出す。また前年データである2019年春夏・秋冬と比較をしながら、形（シルエット・ディテール）・色・素材の傾向、トレンドの推移を検証することを目的とする。

3. 研究方法

「デザインの基礎資料の整理」としてパニエとトレーンについては、文献及び先行研究、ブライダル業界誌を参考にして基礎概念を示す。さらに結婚情報・情報誌サイトを参照して検証する。全ての資料を総合的に検討して、まとめる。

「2020年のトレンドデザイン」に用いるインターネット情報は、3サイトを対象とする（表1）。『ウェディングパーク』⁵⁾は、結婚情報サイトの中でも日本初のブライダル衣装口コミサイトで、ドレスの品揃えが充実している。そして、結婚情報誌サイトで定番とも言える『ゼクシィ』⁶⁾と国内向け結婚情報誌の中でも1986年創刊で古くから現在まで長い間購読されている『25ansウェディング』^{iv) 7)}が運営しているサイトを分析対象とする。それぞれのサイトで、白のドレスに限定して、タブやカテゴリーを精査してデザインに関連する項目を検証する。ゼクシィ結婚トレンド調査では、「ウェディングドレスを決定する際の重視点」は、デザインが良い

ことが90.4%と圧倒的に多い。ここで言うデザインとは、シルエットやディテールなどの形なのか、またレースなどの素材なのか、かわいいなどのイメージなのかは明確に示されていない。提案者側が設定するサイトにおける検索項目は、消費者の志向やデザインのトレンドを見極めて実行する。その項目を精査することにより、重視されている内容を明らかにできると考える。また、項目別にサイトに展開されている商品数をデータ化する。このデータを参考に、市場に展開されているドレス数の概算が仮想できる。さらに、結婚情報および情報誌サイトが提示しているトレンド情報を参照して、デザインの傾向を導き出す。複数の定性的調査から、現在の提案者側および消費者側の両視点からの市場におけるデザイン傾向が導き出せると推測している。

2020年春夏ブライダルトレンドレポートの分析方法は、春夏の22トレンドを対象とし、前稿と同じく見出しに記述されている単語を抜粋して項目別にデータ化する。また本稿では、見出しの解説文（約160文字数）も見出しと同様の方法でデータ化する。項目は、[イメージ] [デザイン] [アイテム] とし、[デザイン] は〈色〉〈素材〉〈形態〉の他にウェディングドレスの特徴でもある〈装飾〉も加える（図1）。〈形態〉は、[シルエット] [ディテール] とし、[ディテール] は、《ネックライン・カラー》《スリーブ》《その他》に分類する。データと画像を照らし合わせて検証して、2020年のドレストrendの傾向

表1 分析資料（3サイト）の概要

サイト名	会社名	設立	事業内容
ウェディングパーク	(株)ウエディングパーク	1999年9月	結婚に関する情報・検索サイトの企画・運営など
ゼクシィ	(株)リクルートマーケティングパートナーズ	2012年10月	婚活・結婚・出産育児情報、自動車関連情報、まなびコンテンツ、高校生の進学情報サービスなど
25ans ウェディング	(株)ハースト婦人画報社	1989年3月	雑誌、企業出版、Eコマース、ウェブサイト運営など

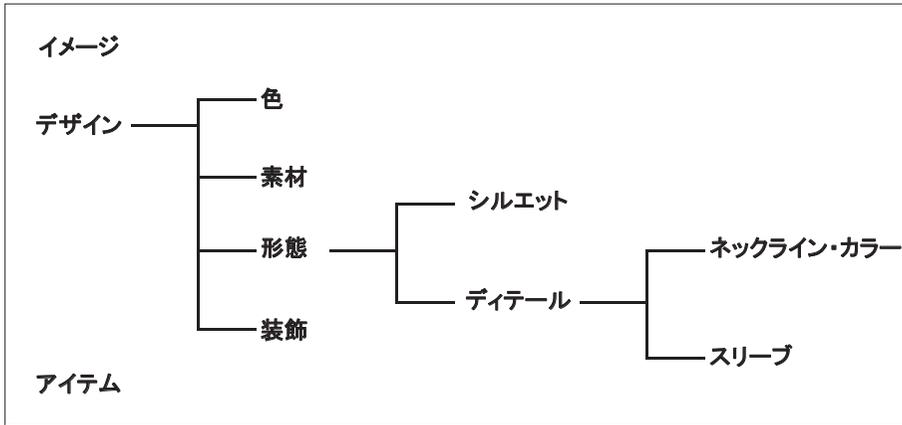


図1 分析項目

を導き出す。そして、2019年春夏・秋冬のブライダルトレンドレポートの分析データ結果と2020年春夏の結果と照らし合わせて検討して、トレンドの推移を考察する。

4. 研究結果

4-1. デザインの基礎資料の整理

4-1-1. パニエ

パニエ (panier仏) は、18世紀に西欧の婦人がスカートを広げるために用いた腰枠形式の下のスカートである⁸⁾。スカートの膨らみを出すために用いられたフープ (hoop: 枠) は、16世紀半ばから始まり、その時代の流行によって、パニエ、ファージンゲール^{v)}、クリノリンなどとしだいに移り変わっていった⁹⁾。現在はわざわざパニエの名称で、ドレスやワンピースのスカート部分、あるいはスカートを膨らませる、または張りを出すために用いるアンダーウェア・下着として使われている。出したいシルエットにより張り具合も異なった表現が必要で、材料はチュール、オーガンジー、ナイロンなどが用いられる。装飾用のレースがあしらわれているものも多い。大きな形状を出したい場合は、ワイヤーなどで骨組みをつくり、硬い素材で大きく膨らませる。生地には張りのある化繊のチュールなどのかさを増し易い素材を使い、

ギャザーで縫い縮めて一層膨らみを出す。パニエはウェストから裾にかけて直線的に広がるピラミッド型と、全体に曲線的イメージのドーム型に大別される¹⁰⁾。そして、一般的には、ワイヤーが無いとボリュームが小さく、ワイヤーの数が多いとボリュームが大きくなる。また、何段にするかで、大きさも異なる。通常では数が多くなればなるほど裾周りが大きくなるため、大きい形状となる。パニエのデザインは、ドレスのシルエットをどう見せたいかだけでなく、ドレスの生地により、パニエの形状のあたりが出てしまうなども検討しなければならない。また裾に広がるタイプだけでなく、マーメイドラインやミニ丈のパニエ、さらにバツルシルエットのためのパニエもある。

現在市場で展開されているウェディングドレスの中でもスカート部分に広がりのあるドレスは、スカート部分を膨らませるためにパニエを着装するのが一般的である。ゼクシィ結婚トレンド調査結果では、「希望していたドレス・着用したドレス」の回答は、Aライン76.8%・56.3%、プリンセスライン54.1%・30.3%と、他のラインと比較すると圧倒的に支持されている。さらに2014年からの時系列データ結果からもAラインは50%以上、プリンセスライン30%以上と他のラインと比較すると安定して人気と

なっている。Aラインとプリンセスラインのドレスは、パニエを用いてシルエットを保つ。従って、パニエは現在の市場で展開されるウェディングドレスには必須のアイテムと言える。ブライダル市場では、ドレスの多くはレンタルが主である。人気のあるドレスのシルエットに合わせる、さらに美しいドレスのシルエットを出すためには、パニエの形状も合わせて検討しなければならない。また、着慣れないドレスを歩きやすくするためには、身長に合わせてスカートの丈を調整する効果もパニエにはある。これらのことを配慮しなければならないため、提供側は、花嫁の身長・体型に合わせて、特にスカート部分はボリュームと丈のバランスを微調整する。挙式当日に合わせる靴を履き、ボリュームの出し過ぎによるスカート丈の浮きと足先の見え方やしわ・寄れ、一方ボリュームの抑え過ぎによりスカート丈が美しいかどうかなどの確認が行なわれる。レンタルのために用意されているパニエは、これらに対応できるように、ワイヤー有・無や段数なども含めて、各社工夫をしている。例えば、ワイヤー入りのパニエは、広がり小さい・大きい・特大の3種類を設け、ワイヤーの広がりを調整することで丈のバランスの調節が可能になる。

4-1-2. トレーン

トレーンは、引きずると言う言葉から生まれたもので、歩く時に床の上を後方に引きずる部分、裳裾のことを言う¹¹⁾。トレーンを付ける方法は様々あり、付けることにより非常に豪華さが加わる。さらに、ドレス全体の雰囲気も左右するため重要である。ゼクシィ結婚トレンド調査からも、ドレスを決定する際の重視点は、「後ろ姿が映えること」や「トレーンが長いこと」と後ろ姿とトレーンに関しての具体的な記載が見られる。消費者視点からも重要なデザイン要素であることがわかる。

トレーンは、格式や挙式会場の大きさにより長さが変わるとされている。一方、例えば長い

トレーンはエレガントで、短いトレーンはカジュアルでキュートな印象になるなど、ドレスのイメージも左右する。日本のブライダル業界では、会場の広さや大きさはもとより雰囲気も含めて、ウェディングドレスのトレーンの長さや会場の関連を示しているサイト情報などが多い。例えば、長いトレーンのドレスは、「本格的なチャペルや大聖堂などバージンロードの長い式場にとってもよく合う」「階段に長いトレーンを上げた姿はとても美しく、階段のある式場で写真撮影を行う場合にとってもおすすめ」などである。多くの花嫁の憧れでもあるロイヤルウェディング^{vi)}の中でも、英国王室のダイアナ妃は8m近い長さのトレーン、歴代プリンセスの中ではやや短めとされるキャサリン妃のトレーンは2.7mで、当時のメディアに多数取り上げている¹²⁾。伝統と格式があるロイヤルウェディングは、長いトレーンが印象的だと考えられる。

ブライダル業界の提案を検証すると、トレーンは、ロングトレーンとショートトレーンの2つに大別される。長さの明確な基準はないが、欧米で人気の長さや日本で多い長さを精査すると、おおよそウエストから160cm位以上がロングトレーンと推察できる。一方ショートトレーンは、スカートの裾を持ち上げてダンスを踊るのにちょうどよい長さやとされているドレスの裾から約30cmの長さから、ロングトレーンまでの長さや推察できる。ブライダル情報サイトなどで、トレーンの長さを示すためにダンスを踊る動作を示しているサイトが複数存在する。欧米のウェディングセレモニーの1つである、新郎新婦が夫婦となり始めて踊るファーストダンス^{vii)}を想起しているためと考えられる。

最近では、トレーンの取り外しや、短く留めることができる長さをアレンジできる提案も見られる。例えば、挙式はロングトレーン、披露宴でショートトレーンまたはトレーンを外すなど、いわゆる2WAY(2通りの使い方ができる意味)にして印象を変えるタイプなどである。

トレーンは、ドレスのウエスト部分から、または後ろ身頃の肩や背中などから形作るなどの方法がある。素材は、ドレスと同じ、または異なる素材でその特性を活かして作る。例えば、裾に模様があるレースを重ねる場合は裾の模様が綺麗に見えるように、またドレス本体と異なる生地で透ける素材を使う場合は透けて見える効果などを考えて創造しなければならない。さらに、フリルやラッフルなどを用いてトレーンとして形成する方法などもあるため、バリエーションは豊富である。

4-2. 2020年のトレンドデザイン

4-2-1. インターネット情報からみるドレスのトレンド

ウェディングドレスのデザインについて、3つのサイトで検索を行うと、はじめに挙がっているのはシルエットである。デザイン要素の中で、シルエットが重要な項目であることが分かる。次にネックライン、スリーブ、テイスト、特徴、身体の悩みなどの項目がある。

サイトのシルエットの名称と検索して挙がってくる数を基礎資料としてまとめて(表2)に示す。全てのサイトにおいてAラインは圧倒的に多い。上半身が小さく、裾に向かって広がるAラインのドレスは、ウエストが高い位置にあり、足を長く見せる効果があり、比較的誰にで

も似合うとされている¹³⁾。このシルエットは、シンプルなものから、ビーズや刺繍をふんだんに活かした装飾やフリル、ドレープを活かした様々なバリエーションに展開できる。ディテールや装飾、素材の使い方などのデザイン表現により色々なイメージを提案できる¹⁴⁾。また、バランスが取りやすいので、トレーンを長くすることも可能であるため、バージンロードの長い教会でも着用できる。一方、スカートの裾広がり具合を抑えめにすれば狭い会場にも適した形にすることができる。

3サイトのシルエットの名称が異なっているため、名称と画像のシルエット、前稿のデザインの基礎資料・シルエット分析結果を照らし合わせて検討した。その結果、『ウェディングパーク』のプリンセスラインとするシルエットの画像の中には『25ans ウェディング』におけるベルライン(ボリューム)と類似するシルエットがある。さらに、『25ans ウェディング』のベルラインの画像は、『ウェディングパーク』、『ゼクシィ』のAラインとプリンセスラインのシルエットと類似している画像も混在している。各サイトにおけるシルエットの解釈がそれぞれ異なっていることがわかる。もとより、Aライン、プリンセスライン、『25ans ウェディング』のベルラインともにトップ部分は身体に沿った形状で、スカート部分については、広がり具合は異

表2 シルエット

	ウェディングパーク		ゼクシィ		25ans ウェディング	
	数	割合	数	割合	数	割合
Aライン	956	45%	129	50%	1348	43%
エンパイア	67	3%	7	3%	125	4%
スレンダー	263	12%	29	11%	573	18%
プリンセスライン	523	25%	76	29%		
ベルライン					661	21%
マーメイド	217	10%	19	7%	380	12%
ミニドレス	94	4%			61	2%
計	2120	100%	260	100%	3148	100%

ウェディングドレスのデザインに関する研究 (2)

なっているが、裾に向かって広がるシルエットである。この3シルエットを合計した各サイトの画像数の割合は、70%、79%、64%と多い。続いてスレンダー、マーメイド、エンパイアの順である。

ブライダルの業界関係者による2020年ウェディングドレスのトレンドを予測するサイト記事では、シルエットの傾向は、昨年までのボリュームのあるAライン、プリンセスラインもそのまま継続している。一方、Aラインについては、限りなくボリュームを抑えたシルエットを「スレンダー Aライン」と称して提案している¹⁵⁾。さらに昨年までのボリュームのある裾が広がったベルラインは、より一層ボリュームがあるシルエットへ進化する傾向が見られる。Aライン、プリンセスライン、ベルラインのスカート部分の形状は、少し控え目な広がり、より大きなボリュームのある形状の2極化の傾向とまとめることができる。スレンダーは、シルエット自体には昨年から大きな変化はないものの、背中を大胆に開けたディテールや、細いストラップを使ったディテールと合わせた提案が新しい。また、2018年にリバイバルして人気

に火が付いたとされるマーメイドラインにおいては、2020年は「ソフトマーメイド」と称して、よりフィット感をゆるやかにしたラインへの進化が見られる。

ネックライン・カラー・スリーブの結果を(表3)に示す。ネックラインは、3サイトともビスチェ・ベアトップが、圧倒的に多い。肩を出し、デコルテ(首から胸元にかけての部分)部分が広く開くのでフェイスラインがすっきり見えることや上半身のラインが強調されて体にフィットして見えることなどが支持される理由と考えられる。長い間、ウェディングドレスの定番のディテールとして、提案されてきた。そのため、ウェディングドレスは、ビスチェ・ベアトップの印象が強く、主役になる際に定番のディテールが選ばれていると推測できる。今シーズンは、ビジュアールやパール、3Dフラワー(お花のアプリケ)などを施し、華やかな装飾の提案が見られる。ビスチェ・ベアトップと同様に肩を出すディテールでは、半袖・長袖を含めてオフショルダーも多い。オフショルダーに袖を付けたようなドロップショルダーの展開も見られる。

表3 ネックライン・カラー・スリーブ

		ウェディングパーク	ゼクシィ	25ans ウェディング	
ネックライン	ビスチェ・ベアトップ	1042	93	1152	
	ホルター・ネック			44	
	ストラップ			138	
	ハート・カット			293	
カラー	ロール・カラー	11	1		
	ハイ・ネック			59	
スリーブ	袖丈	半袖	186	619 (半袖・長袖記載なし)	
		長袖	229	49	
		ノースリーブ	374	35	
	アームホール	フレンチ・スリーブ		29	
	ショルダーライン	ワンショルダー	9		50
		オフショルダー	235 (半袖222、長袖13)		403

スリーブにおいては、半袖・長袖とも袖付きのドレスが支持されている(表3)。気になる部分(例えば二の腕)のカバーやロイヤルウェディングの影響からクラシックなイメージへの憧れも要因と考えられる。キャサリン妃やメーガン妃が着用された袖付のドレスは、今まで露出の多い袖無しのデザインが主流だったウェディングドレスの新たなトレンドとなったとされている。

テイストにおいては、記載のあった『ウェディングパーク』の1802個、『ゼクシィ』の215個を合計して、さらに類似しているキュートとロマンティックをまとめて割合を示す(表4)。結果、キュート・ロマンティック22%、シンプル19%、クラシカル18%、スタイリッシュ15%、ゴージャス14%、ナチュラル13%とばらついている。

特徴の項目は、ディテール・素材・装飾などのデザインとイメージ、海外ウェディング・マ

タニティ用・2WAYなどの場所・用途に分けることができる(表5)。ディテールの項目として、ロングトレーンとバックコンシャスの記載があり、今季のトレンドであると推測できる。

表4 テイスト

		ウェディングパーク・ゼクシィ	
		数	割合
テイスト	キュート・ロマンティック	447	22%
	シンプル	374	19%
	クラシカル	356	18%
	スタイリッシュ	294	15%
	ゴージャス	287	14%
	ナチュラル	259	13%
計		2017	100%

表5 特徴

			ウェディングパーク	ゼクシィ
デザイン	ディテール	バックコンシャス	429	
		胸下切り替え	145	
		ロングトレーン	441	54
	素材	シルク		13
		チュール	577	
		レース	880	
	装飾	コサージュ・リボン・フラワーモチーフ		11
		刺繍	529	
		刺繍・ビーズ		93
		ビーズ	366	
		フリル	179	
	リボン	213		
イメージ	個性派	422		
場所・用途	海外ウェディングOK	521		
	マタニティ用	77		
	二次会向き		3	
	2 way	407	51	

4-2-2. 2020年春夏ブライダルトレンドレポート

抽出した全単語175の内訳は、イメージ60%・デザイン22%・アイテム18%である(表6)。デザインは、形態・装飾・色・素材の順である(表7)。形態の内訳は、ディテールの記載が多い(表8)。以下、2020年のトレンドとして特徴的な用語を挙げて検証する。

イメージは、[モダン] と並び [シンプル] が多く、この2つの用語に関連する [ミニマル (minimal)]^{viii)} [ミニマリズム (minimalism)]^{ix)} [エフォートレス (effortless)]^{x)} などの用語が複数見られる。一方、[エレガント] や [ロマンティック] 及びその派生の [可愛らしい] と [キュート] を含めた用語や [セクシー] [グラマラス] などの女性らしさを表す用語は、ドレスのイメージを表す用語としては一般的である。また、[ナチュラル] [リラックス] [ゆるめ]

などの用語も見られる。

形態・ディテールは、《オフショルダー》《高めのネックライン》《ネックマーク》《ボート・ネック》《Vカット》などネックラインについての単語が多い。《オフショルダー》は、ここ数年のトレンドとしながら、例えばシルク素材を使って、二の腕をふんわりと包み込むような形状が見られ、シンメトリーならば上品に、アシンメトリーならばモダンなイメージへと進化している。一方、《高めのネックライン》《ネックマーク》《ボート・ネック》《Vカット》は、今年の新しいディテールである。レース素材は使っていても装飾は一切しない《高めのネックライン》は新鮮な印象となる。さらに、大きく開けた胸元に首をマークした《ネックマーク》と称した極端なバランスは、今までにはない表現である。浅く緩やかなカーブで横に広く開いた《ボート・ネック》は、上品な可愛らしさも出るディテールと記されている。《Vカット》は、ベアトップの胸元に深く入れた形状であり、イメージ用語の [90年代] の [ミニマリズム] や [シンプル] な上品さと関連があり、多くのデザイナーが取り上げていた。

その他には、《アシンメトリー》の表現として、今シーズン見られるギリシア神話の女神のような《ワンショルダー》は、数年ぶりに登場した今シーズンのトレンドである。そして、例えば《スリット》は、昨シーズンに引き続いてさらに大きなトレンドになっているが、アシンメトリーな表現が今季の特徴である。太ももまで見える程スカート部分に深く入ったスリットは、片方にしか用いられていない。

シルエット名の具体的な名称は《マーメイドライン》のみである。見出しは「昨シーズンに続き」「ランウェイを席卷」と記載がある。2020年春夏の提案において、トレンドのシルエットと推察できる。

装飾については、数シーズン継続トレンドの《リボン》は、引き続き大きな形状で、多くがバックスタイルのポイントになっている。また大き

表6 2020 抽出単語内訳

項目	数	割合
イメージ	105	60%
デザイン	38	22%
アイテム	32	18%
計	175	100%

表7 デザインの内訳

項目	数
形態	17
装飾	10
色	7
素材	4
計	38

表8 形態の内訳

項目	数
ディテール	14
シルエット	3
計	17

な《コサージュ》はアクセントに用いられているが、ここ数年人気だった大きなリボンに変わる新しいトレンドと予測している。《プリーツ》は、トップ、スカート部分などに用いられ、構築的なシルエットを創造し、多種多様な表現が見られ、今年のトレンドとまとめている。

素材については、ドレスにはなくてはならないレース素材の新しい傾向が見られる。例えば、全身の肌を見せる上品なグラフィカルな印象の柄、ランジェリーのような繊細な〈レース〉を用いて〔コルセット〕や〔ブラ（ブラジャーの略称）〕などのアイテムで新しい傾向を示している。特に〔コルセット〕や〔ブラ〕は、「見せるため」のアウトランジェリーの着こなしが提案されている。また、これまでアクセントとして取り上げられていた〈フェザー〉については、今シーズンは、定番の素材と称している。

アイテムとして新しく登場した〔キャミソールドレス〕は、トレンドのムードが1980年代から1990年代へと移行する象徴的なアイテムとして取り上げられている。

4-2-3. 2019年と2020年のブライダルトレンドレポートにおけるデザイン傾向の推移

抽出した見出しの単語（2019春夏・秋冬65、2020春夏48）の内訳は、2019年においてはイメージ41％・デザイン45％・アイテム14％、2020年はイメージ52％・デザイン38％・アイテム10％である（表9）。デザインは、2019年と2020年ともに形態が多く、次に素材・装飾・色の順で、両年ともに形態の内訳は、シルエットよりディ

テールが多い。つまり、2019年と2020年の結果は、大きな差は見られない。以下、2019年と2020年について、デザイン・アイテム・イメージの分析結果を比較して検証する。

形態について、2019年と2020年を比較すると、ネックラインの単語は増え、袖の単語は少ない。《Vカット》と《ハイ・ネック》は継続、《ボート・ネック》は、2020年に出現する。一方2019年では《ロング・スリーブ》や《パワーショルダー》などのロイヤルウェディングやプレタポルテのトレンドの影響を受けたディテールが見られた。2019年以前にもトレンドとされていた《オフショルダー》は、2019年にはフリルを加えて、さらに2020年ではオフショルダーの《パフ・スリーブ》などの進化した表現が見られる。2020年の新しい袖のデザインは、《ワンショルダー》のみである。さらに《スリット》は継続している。ディテールと装飾を検証すると、2019年は《フリル》《リボン》《フラワーアップリケ》、またこの年のキーワードである《3D》は愛らしく用いるなどの記載がある。一方2020年は《大きなコサージュ》《プリーツ》が新しく登場している。シルエットは、〔マーメイドライン〕が、2019年に新しく登場し、2020年では「ランウェイを席卷」とあるように、拡大した様が推測できる。

アイテムについては、〔パンツ〕アイテムの提案に変化が見られる。数シーズン提案されている〔パンツ〕スタイルは、昨シーズンの〔ジャンプスーツ〕が新鮮とされていたが、今シーズンは素肌に直接着用するジャケットに合わせたパンツの〔スーツ〕が人気となっている。

イメージは、2019年は〔エレガント〕〔プリンセス〕〔フェミニン〕〔キュート〕などの女性らしい用語が多い。一方、2020年は、女性らしさを表す〔フェミニン〕〔グラマラス〕は見られるが、〔シンプル〕〔ミニマリズム〕〔ハンサム〕などの真逆なテイストが見られる。真逆なテイストは2019年秋冬では、「装飾を削ぎ落とした〔クリーン〕なドレス」の記載がある他には見

表9 見出し抽出単語内訳

項目	2019		2020	
	数	割合	数	割合
イメージ	27	41%	25	52%
デザイン	30	45%	18	38%
アイテム	9	14%	5	10%
計	66	100%	48	100%

られない。2020年のイメージとデザイン及びアイテムの単語を照らし合わせると、《リボン》や《大きなコサージュ》などのフェミニンなディテールは見られるが、《プレーンなVカット》は[ミニマリズム]、[ジャケット]は[ハンサム]と2019年にはないデザイン要素が見られることに注目したい。さらに、2019年秋冬に《パワーショルダー》と関連して登場した[90年代]は、2020春夏は「90年代風のシンプルなキャミソールドレスが、この春一番の注目！」と紹介されているように、インスピレーションを受ける年代が1980年代から1990年代へと移行したことが伺える。

5. まとめと考察

本研究において、研究目的とした「デザインの基礎資料の整理」と「2020年のトレンドデザイン」に分けてまとめと考察を記載する。

「デザインの基礎資料の整理」は、前稿で積み残した課題としたパニエとトレーンについて、定義も含めて、形や素材などのデザインの特徴を明らかにした。パニエは、ドレスのスカート部分の広がりを保つために用いられ、ワイヤー入りまたは無し、そして素材の使い方などで様々な形状を作ることができる。現在の市場で展開されるスカート部分が広がるドレスには必須のアイテムである。レンタルが主流の市場では、限られた種類のパニエを、花嫁の身長や体型に合わせて、微調整をして提供している。トレーンは、ドレスのイメージに合わせて造形や素材などを検討することはもとより、挙式の種類や会場の広さも考慮しなければならない。

「2020年のトレンドデザイン」は、インターネット情報とブライダルトレンドレポートの2つの資料からトレンドを導き出した。インターネット情報の分析結果から、デザイン要素の中ではシルエットが重要であることが明らかになった。そしてAラインやプリンセスラインのようなスカート部分が広がるシルエットが好まれる傾向が継続している。2020年の市場分析か

らは、よりボリュームを出す形状と、限りなくボリュームを抑えた形状の相反する2つの提案が見られる。さらにロイヤルウェディングに影響を受けたスレンダーやマーメイドなど、多様なシルエットが展開されている。そして、場面に応じて形の変化が可能である2wayなどの提案も見られる。業界は、挙式スタイル及び花嫁の趣向の多様化に対応していると理解できる。

ブライダルトレンドレポートの分析結果は、イメージを示す単語が多いことが明らかになった。デザイン表現の基は、イメージから発想するため妥当である¹⁶⁾。そしてデザイン表現は、トレンド分析の専門用語である継続・進化・反動の3つの方向性が読み取れる。前シーズンまでとおおよそ同じ傾向や表現である“継続”、前シーズンの傾向や表現に何らかの新鮮さが加わる“進化”、今までの傾向に対抗して生じるそれと全く反対の傾向や表現が“反動”である¹⁷⁾。

デザインの核となるイメージでは、女性らしいテイストの[エレガント]や[ロマンティック]は継続しているが、2020年には[シンプル][ミニマリズム][ハンサム]などの相反するテイストが登場する。その他にインスピレーションの基は、2019年の記載では1980年代、2020年の記載では1990年代へと移行した記載が見られる。これらの新しく出現したイメージ及びテイストは、次のシーズンに提案されるデザイン表現を検証しなければならない。業界のトレンドを牽引している『VOGUE wedding』のブライダルトレンドレポートは、前稿で明らかにしたように業界の専門家が指針としている。市場において進化して拡大トレンドとなるか、または消滅するかの見極めが重要である。

シルエットは、[マーメイドライン]が継続して拡大した現象が確認できたが、その反動となる新しい表現は見られない。一方、ディテールは、ネックラインの豊富なバリエーションが提案されている。《オフショルダー》は継続しているが、素材や形状の変化に富み進化している。一方、《高めのネックライン》《ネックマー

ク》《Vカット》は、新しく出現したディテールである。装飾は一切しない《高めのネックライン》、大きく開けた胸元に首をマークした《ネックマーク》、イメージ用語の [90年代] の [ミニマリズム] や [シンプル] な上品さと関連がある《Vカット》は、装飾性からモダンな方向へとムードが移行する予兆と推測できる。その他には《スリット》が継続している。これらのデザイン表現については、結婚情報・情報誌サイト、ブライダル専門雑誌などを参照して、どのように反映されるのか、その影響を検証する必要がある。

今後、ウェディングドレスのデザインの研究を継続していく予定である。トレンドデザイン分析のデータ数を増やし、時系列推移の検証とデザイン表現の関連を明らかにすることを計画している。

注

i) OEM (Original Equipment Manufacturer) は、相手先のブランドで販売される製品を製造すること。ODM (Original Design Manufacturer) は、情報収集に基づいた商品の開発、製造までを手がけること。

ii) 『VOGUE JAPAN』のウェブサイトは2000年に誕生、世界のファッションをはじめ、さまざまな最新トレンドを扱い、より多く質の高い多様な情報を発信している。

iii) (株) リクルートマーケティングパートナーズが企画運営する結婚情報誌『ゼクシィ』が実施している調査。結婚スタイルについて詳細に把握する目的で、毎年「結婚トレンド調査」を行っている。1994年に首都圏で開始した調査は、年々調査地域を拡大し、現在では15地域による全国規模の調査を実施している。ブライダル総研公式サイト. <https://souken.zexy.net>, 2019年5月15日閲覧

iv) 1986年に『25ans』の増刊号として創刊。ハースト婦人画報社が季刊発行しているウェディング情報誌。

v) スカートの膨らみを出すために用いられた枠の一つ。16世紀の半ばころから、円錐形のスカートの形を保つための工夫として用いられていた。

vi) ロイヤルウェディングとは、王室の結婚式のこと。世界的にも注目度が高く、その後のウェディングの流行を作ることも少なくない。ゼクシィ公式サイト. <https://zexy.net/contents/yogo/>, 2019年6月6日閲覧

vii) ファーストダンスは、欧米のウェディングにおいて、夫婦となったふたりが初めて踊るお披露目のダンスのこと。

viii) 最小限のと言う意味。無駄がなく洗練されたスタイルのこと。

ix) 最小限主義。造形芸術と言う分野において1960年代のアメリカに登場し主流を占めた傾向。ファッションでは極限までシンプル化した服などを言う。服から無駄な要素をすべて省き、最小限にすることにより本来人間のもつ人間本来の持つ感覚を回復させ、内面性を浮かび上がらせようとするもの。

x) 2014年頃から使われるようになったファッションスタイルで、努力 (effort) を要しない、肩の力を抜いたほどよいカジュアルスタイルのことを意味する。

引用・参考文献

1) 宮武恵子,加藤裕子.ウェディングドレスのデザインに関する研究(1) - デザイン分析における基礎的な概念 -, 共立女子大学 家政学部紀要, 第66号, 2020年2月, p.37-51

2) Vogue公式サイト. <https://www.vogue.co.jp/wedding>, 2019年8月17日閲覧

3) 吉國さおり. パニエについての一考察, 文化女子大学紀要 服装学・生活造形学研究30, 1999年1月, p.63-76

4) ゼクシィ結婚トレンド調査 2019. 首都圏, (株) リクルートマーケティングパートナーズ, 2019年10月, p.111-256

5) ウェディングパーク公式サイト. <https://>

ウェディングドレスのデザインに関する研究 (2)

www.weddingpark.net,2020年6月1日閲覧

6) ゼクシィ公式サイト. <https://zexy-ensoudan.net>,2019年6月6日閲覧

7) 25ansウェディング公式サイト. <https://www.25ans.jp>,2020年6月1日閲覧

8) 服装大百科事典 下巻,文化出版局,2001年4月10日,p.104-105

9) 服装大百科事典 下巻,文化出版局,2001年4月10日,p.228-229

10) 榎本春栄,パニエについての一考察ーフリルのギャザー量と形状との関わりについてー,和洋女子大学紀要 第43集(家政系編),p.69-83

11) 服装大百科事典 上巻,文化出版局,2001年4月10日,p.769

12) ELLE公式サイト. <https://www.elle.com/jp>,2020年6月8日閲覧

13) ウェディングプランナー資格1級公式テキスト.一般社団法人職業技能振興会,一般社団法人JWPA国際ウェディングプランナー協会,2017年10月1日,p.233

14) The Business of Japanese Weddings.全米ブライダルコンサタント協会,2015年3月,p.4-11

15) みんなのウェディング公式サイト. <https://www.mwed.jp/articles/7094/>,2020年7月6日閲覧

16) FASHION DESIGN BASICS,ピー・エヌ・エヌ新社,2010年3月1日,p.26-27

17) 宮武恵子,ファッション・デザインの発想に関する知見ーコレクション分析を基にしたファッション・トレンド情報ー,第17回日本感性工学会大会,2015年9月